

體大、雄則形小ト云是ナリ、鷹ハ品類多シ、西陽雜俎及ビ鷹鶻方ニ詳ナリ、本邦ノ古書ニハ新修鷹經アリ、其餘後出ノ書多シ、本草綱目ニ鷹ヲ説コト、甚ダ疎略ニシテ混淆モ多シ、角鷹ヲ鷹ノ一名トスルハ是非ズ、クマタカナリ、鷹ヨリ大ニシテ毛角アリ、又爾雅翼ヲ引テ在北爲鷹、在南爲鶻ト、南北ヲ以テ鶻鷹ヲ分別スルハ非ナリ、二物自ラ別ナルコト通雅ニ見タリ、又一云ヲ引テ大爲鶻、小爲鶻ト云ハ是ナリ、鶻ハシタカ一名ハイタカ、即コノリノ雌ニシテ、鳧鶻ヲ捉ル雄ハコノリニシテ告天子ヲ捉ルト、大和本草ニ見タリ、又此書ニ鶻ヲ鶻ニ入ルモ亦非ナリ、

〔貞丈雜記〕<sup>十五</sup>鷹一すべて鷹は男鳥小さくして、女鳥は大なる物也、鷹の品々如左、  
一 兄鷹は男也、弟鷹は兄鷹の女也、男鳥は小き故小といふ、女鳥は大なる故おほたかとも、だいたかとも云、

一 白鷹は日本にはなし、朝鮮國より渡る、鶻雁鶻等を取るなり、

一 兒鷹ははいたかの男也、鶻はこのりの女也、歌にはしたかともよめるは、はいたかの事也、

一 雀鶻はつみの男也、雀鶻はるつさいの女也、大ひよ鳥ほど有り、るつさいは力よわし、鳥とらず、

つみは小鳥を取、又たいさぎをとる也、<sup>略中</sup>

一 兒鷹以下を小鷹と云也

一 若鷹野にてそだちたるを云、黃鷹とも新鷹とも云、

〔新撰字鏡〕<sup>鳥</sup>鷹 力狄反、鴨、久万太可、<sup>可</sup> 鶻 古玄反、天近飛、小 鶻 都聊反、久万太加、

〔干祿字書〕<sup>平聲</sup>鶻 雕 並正

〔倭名類聚抄〕<sup>十八</sup>角鷹 辨色立成云、角鷹、<sup>久萬太加、今按所出未詳、但角者、毛角之義歟、</sup>

〔箋注倭名類聚抄〕<sup>七</sup>角鷹 按角鷹見酉陽雜俎、白居易集與嚴礪詔、杜甫有王兵馬使二角鷹詩、姜楚公

畫角鷹歌、埤雅云、鷹一歲曰黃鷹、二歲曰鶻鷹、三歲曰鶻鷹、鶻次赤也、頂有毛角微起、今通謂之角鷹、